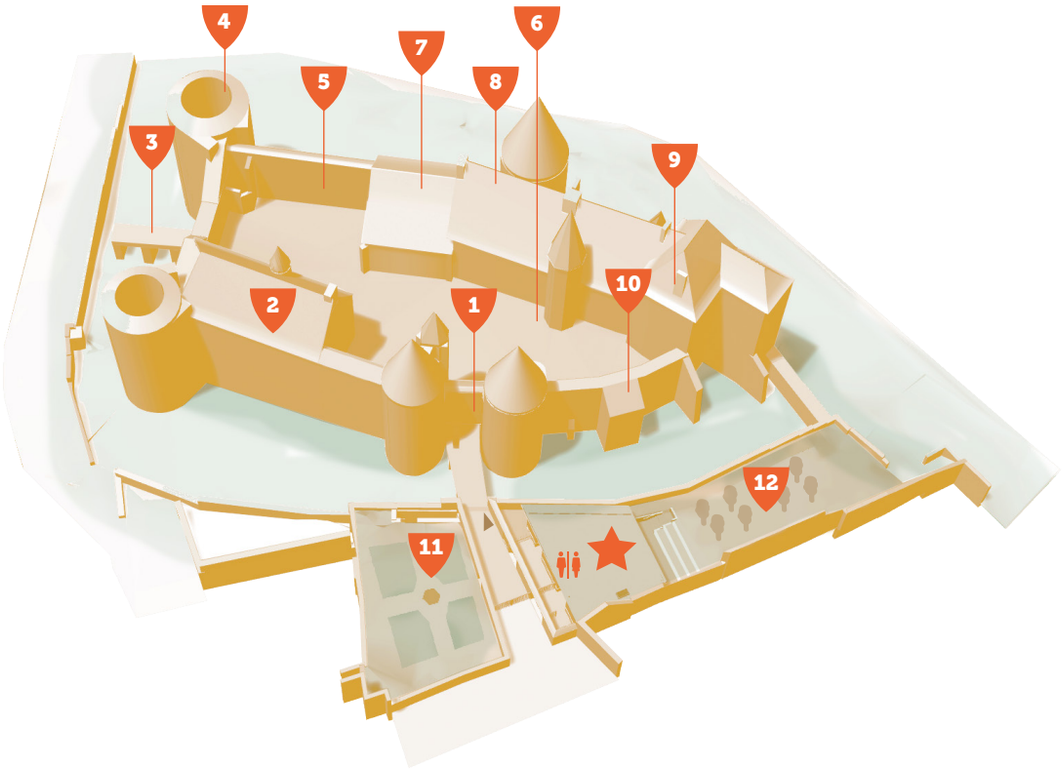
見学



★. 受付 - チケット - ブティック
1. 入場門
2. 来賓の館、分析センター
3. 南門と展望台
4. フランボワイヤンの塔
5. 段丘の眺め
6. 井戸
7. チャペル
8. フィリップ・ポの館
9. 本館と展示会場
10. シャトーヌフの城門
11. 中世の庭園
12. 現代の果樹園

1 入場門 ♥

左の塔は13世紀にシャトーヌフ家により建設され、弓を射るのに適した細長い窓が設けられました。15世紀にはフィリップ・ポが塔を改修し、自身が出入口として使用する塔のひとつに仕立てます。右の塔は追加されたもので、百年戦争の期間中に開発された銃砲類の砲口を設置するのに適した丸い開口部が設けられました。ふたつの跳ね橋は徒歩と荷車用の門へのアクセスを遮断します。跳ね橋を下ろすと空堀の上に橋がかかり、往来を可能にします。この塔は2023年に改修され、今も部分的に残っている建設当初の塗料様式を遵守しています。

2 来賓の館 - フィリップ・ポの塔 ♥

フィリップ・ポは晩年に、城の南側半分を再建させます。来賓の館を彩る手の込んだファサードは、所有者の社会的地位を物語っています。モールディングがあしらわれた正門は、彫刻入りの妻壁と生い茂った葉に潜む動物の頭で装飾されています。建物内の分析センターでは、当地の歴史を辿ることが可能。塔にはフィリップ・ポの墓のレプリカが展示され、音と光の演出がなされています。

3 南門 - 展望台 ♥

フィリップ・ポは自身が建設させた教会へ来賓らとともに列をなして赴くために、豪奢を極めたこの門を整備します。彼が亡くなる時にも工事は完了していませんでした。建設当初から徒歩用の跳ね橋を支える石製の橋柱に、2023年より展望台が設置されています。

4 フランボワイヤンの塔

「フランボワイヤンの塔」という異名は、炎のようなオージーで装飾された門の様式に由来します。現在では崩壊してしまった、かつての階段付き小塔からアクセス。塔へ続く廊下には、城内に点在するトイレのひとつがあります。

5 段丘の眺め

岩石の突出部に建つ城塞。平野との標高差が130mあるため、西側の防衛に役立っています。1700年頃にはヴィエンヌ家が、下方の段丘に庭園を整備します。

6 井戸

シャトーヌフ城の井戸はフィリップ・ポの館に導入されたもの。ライオンの頭を模った滑車式（15世紀）、力を制御するフォーク付きホイール式（16 、17世紀）、ハンドウィンチ式（19世紀）と、3種類の汲み上げシステムが相次いで登場しました。深さは18m。

7 8 9 チャペル、フィリップ・ポの館、本館

フィリップ・ポはチャペル 7 および13世紀に建設されたシャトーヌフ城の本館 9 を改修/維持。新たに建設された領主の館 8 を介して、ふたつの建物を連絡させます。ファサードに張り出した螺旋階段から3つの階に広がる寝室へとアクセスでき、そのうちのひとつはゴシック様式の天窓から光が入る屋根裏のフロアです。

10 シャトーヌフの城門

13世紀には城壁に隣接した正方形の建物から出入りしていました。今も果樹園からは見ることができます。建物頂点のウィンチで作動するチェーンを用いて跳ね橋の橋床を上げることで、出入り口を閉鎖します。橋床を下ろすと空堀に橋がかかり、往来が可能になります。

11 中世の庭園

中世の庭園ではおもに、野菜または薬草を栽培していました。地面よりも高い位置に、枝などを編み上げた生垣で正方形に囲んで栽培地を形成。植物は種類ではなく、機能によってまとめられていました。

12 現代の果樹園 ♥

発掘調査によると、13世紀にはシャトーヌフの城門 10 と村の間を、建物の建ち並ぶ車道が通っていました。その後、フィリップ・ポは自身が出入りするために新しく構えた城の出入口前 1 に広場を整備します。16世紀末には防衛強化のために大きな砲郭が村側に建設され、その一部は今でも受付付近から見ることができます。19世紀には、ド・ヴォゲ家がこの区域を果樹園に改造。現代の果樹園からは、峡谷への見事な眺望がご覧いただけます。

★ 受付 - チケット - ブティック

HQE（高品質環境）規格のこの建物は、2023年に建築家マルタン・バコが設計したもの。外部からはほとんど見えない形で、完璧なまでに区画へ溶け込んでいます。

≈1時間15分

スタッフ一同より皆様へ
心ゆくまで見学をお楽しみください！
当施設の超おすすめスポットをご覧ください

城の略史

12-13世紀

一族の誕生

のちに城の敷地となる土地が12世紀にショドネイ領主から末息子へ譲渡され、シャトーヌフ家ジャン1世と名のるようになります。ブルゴーニュ公に仕えるシャトーヌフ家は、280年に渡り領地を管理。一族は1456年に滅亡。領地最後の婦人であるカトリーヌが夫を毒殺し、焚刑に処されてしまいます。

15世紀

フィリップ・ポ、シャトーヌフの領主

ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンは彼の代子のひとりであり、ラ・ロッシュ領主兼侍従、すなわち公爵顧問委員会一員の子息であるフィリップ・ポへ、領主の権限を授けます。フィリップ・ポは既存の部分を改修し、新たに館を一棟建設。1477年にフランス国王の家老となった彼は防衛を強化し、チャペルを中心に大規模な建設/装飾計画を開始します。1493年、後裔なきままデイジョンにて死去。

17-18世紀

ヴィエンヌ伯の保養地

1627年、シャトーヌフに程近いコマランの伯爵夫妻、シャルルル1世とマルグリット・ド・ヴィエンヌが城を買収。
新たな所有者により既存の建物三棟が改修され、贅を尽くした装飾が施されます。封建制度における領主の権力を象徴した館と本館はこうして豪奢の地となり、社交生活が繰り広げられます。ド・ヴィエンヌ家はまた、平野側の城の足元に広がる段丘に、娯楽用の庭園を整備。後に相続を経て、コマランとシャトーヌフの領地が切り離されます。

19世紀

田舎の領地をド・ヴォゲ家が所有

フランス革命に関連する被害が少なかった城は1802年に、すでにコマランの所有者であったド・ヴォゲ家の手に渡ります。
彼らはシャトーヌフの土地を農業用地として使用。城の下方でブドウの木を栽培し、果樹園と段丘にクワの木を植樹。クワの葉は養蚕に利用します。

20世紀

歴史と文化の地

1894年、城は歴史的記念物に指定され、パリのノートルダム寺院を修復したヴィオレ・ル・デュックの義理の息子であるシャルルル・スイスにより、補強/改修がなされます。1936年、ジョルジュ・ド・ヴォゲは城を政府に寄与。2008年には政府からブルゴーニュ=フランシュ=コンテ地域圏の議会へ譲渡されます。
調査および修復段階が終了した今、よりよい環境にて見学者の方々を迎え、新たなイベントを提案し、現代アーティストの方々に城のスペースを開放することができるようになりました。

21世紀

★

1 チャペル
2 本館
3 シャトーヌフの城門

1 入場門
2 来賓の館
3 南門
4 フランシポワイヤンの塔
5 フィリップ・ポの館

現代の果樹園 受付
★ - チケット - ブティック

RÉGION BOURGOGNE FRANCHE COMTÉ

château de Châteauneuf

900年の歴史

ようこそ
シャトーヌフ城へ